

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	272400524
法人名	有限会社山宝産業
事業所名	グループホームすこやか
所在地	五所川原市金木町芦野84-441 (電 話) 0173-53-3186
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(平成19年11月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	8 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.7 歳	最低 67 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金木病院、今歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「認知症の状態にある方が家庭環境と近い場で共同生活を送り、忘れていた日常生活を送り、残存能力を引き出し、地域の中で普通に生活できるように心掛ける」という理念を掲げており、地域との共存を深く意識したケアに努めている。また、利用者や来訪者への接し方について法人代表者が指導するなど、丁寧な対応を心がけている。

身体拘束は行わないことを基本としており、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族に相談して期間等について同意を得るほか、経過観察等を行う仕組みとなっている。また、虐待のないケアを実践するために、マニュアルを作成して全職員に周知する等の取り組みも行っている。

利用者一人ひとりの意向を大切にしており、献立には好みを取り入れたり、一人での入浴やシャワー浴を取り入れる等の工夫を行っている。また、個々の生活歴等に応じて調理や花の水やり、縫い物等の役割や楽しみごとを促しており、日々の暮らしの中で利用者が力を発揮できるよう支援している。

【特に改善が求められる点】

全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要を理解するまでには至っていないので、外部研修に参加したり、内部研修のテーマとして定期的に取り上げる等の取り組みに期待したい。また、感染症についても、理解を深めるための勉強会を行ってはどうか。

ホーム外の苦情受付窓口の名称は明示されているが、より利用者が家族が意見等を出しやすいよう、名称だけではなく連絡先も明示してはどうか。

外部研修受講の機会はあるが、全職員が平均的に受講できる体制とはなっていないので、これまでの研修傾向や職員の希望等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。

災害時に備えて日中と夜間を想定した避難訓練を実施しているが、数日分の食料や飲料水等を用意することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前年度の評価結果を基に改善計画を立てる等、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は評価の意義やねらい等を理解しており、自己評価を作成する際には全職員で話し合いを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、日々の取り組みや評価結果の報告、情報提供等を行い、委員から広く意見を求め、今後のケアに反映させている。今後は町内の老人クラブ会長の参加を促したいと意欲的である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 月1回ホーム便りを配布したり電話連絡する等、日々の生活状況や健康状態等を家族に伝えている。また、面会時等は声がけしたり、苦情・意見箱を設置するなど、家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りを行っており、家族から出された意見は全職員で話し合い、今後のケアに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設当初より町内会に加入して町内の行事に参加したり、運営推進会議に地域の民生委員や行政職員等に参画してもらう等、地域にホームの理念や役割等を理解してもらえるよう働きかけを行っている。また、玄関周りに花を植えるなど、近隣の方が気軽に訪ねてくれるよう明るい環境作りに努めている。地域に開かれたホームを目指すため、利用者のプライバシーに配慮した上で、幼稚園や中学生の訪問、ボランティア等を受け入れている。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	管理者は職員に理念等を十分伝えており、気軽に住民に挨拶する等、理念の実現に向けた取り組みを行っている。 契約時は、ケアの方針等について利用者や家族にわかりやすく説明するよう心がけている。また、退居時にも説明して同意を得ており、必要に応じて退居先に関する情報提供を行う等の支援を行っている。 グループホーム協会に加盟して会合等に積極的に参加したり、市の包括ケア会議に参加する等、他事業所との交流や情報交換を図る機会を確保している。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用希望時の相談段階から利用者や家族の視点に立って面談し、意向等の把握に努めている。また、事前に見学してもらう等、なるべく早くホームの雰囲気に慣れてもらうよう支援している。 一人ひとりの楽しみや喜びを見出して一緒に楽しむ等、利用者の気持ちを理解するよう努めている。また、得意分野では力を発揮してもらったり、手作り作品を日々の生活で活用する等、利用者と職員が助け合いながら生活している。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者がその人らしく暮らせるよう、本人や家族の意向等を把握したり、職員の気づきを出し合う等の取り組みを行って介護計画を作成している。また、再アセスメントを行った上で、定期的な見直しや随時の見直しを行っている。 協力医療機関との連携を図りながら利用者の体調管理に努めるとともに、24時間いつでも対応してもらえる体制を整えている。また、受診結果は家族に報告し、共有を図っている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしており、急かしたり無理強いすることなく対応するほか、利用者の希望や訴えには早く対応するよう努めている。 日中は玄関に鍵をかけておらず、外出傾向のある利用者には見守りを行い、外出傾向を察知した時は職員がそっと付き添う等の支援を行っている。 共用空間には行事の写真や季節感のある装飾品が飾られており、家庭的である。また、居室にはテレビや位牌、写真立て等のなじみの物が持ちこまれており、落ち着いた空間となっている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割等を理解しているとともに、住宅地に立地していることもあり、地域との共存を深く意識している。また、地域との関わりに関することを理念に盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の意味を理解しており、地域に溶け込んだサービスを提供できるよう、気軽に住民への挨拶や声かけを行うよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	玄関周りに花を植えるなど、近隣の方等が気軽に訪ねて来れるよう明るい環境を整えている。また、町内会に加入して町内の行事や催し物に積極的に参加したり、利用者のプライバシーに配慮した上で地域の幼稚園や中学生の訪問、ボランティア等を受け入れており、地域に開かれたホーム作りを行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義やねらい等を理解しており、自己評価を実施する際には全職員で話し合いを行っている。また、外部評価の結果を受けて改善に向けた話し合いを行う等、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、日々の取り組みや評価結果等を報告し、委員から広く意見を求めている。委員から出された意見は今後のケアに反映させている。会議には民生委員や行政職員等が参加しているが、今後は町内の老人クラブ会長の参加を促したいと意欲的である。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にパンフレットやホーム便りを送付したり、担当職員に運営推進会議に参加してもらう等、ホームの取り組みを理解してもらうよう努めている。また、行政担当者や地域包括支援センターの職員との連絡を密にとっており、問題解決に向けた話し合いが行われている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用している方はいるが、全職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	外部研修に参加したり、内部研修のテーマとして定期的に取り上げる等、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要を全職員が理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、会議で話し合いを行う等、職員は虐待防止法について理解を深めている。また、マニュアルを作成しており、全職員に周知されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はケアの方針等について利用者や家族に説明しており、分かりやすく伝えるよう心がけている。契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時は退居先に関する情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族に配布するホーム便りや電話等で、普段の生活状況や健康状態等を報告している。また、金銭出納については、領収書を添付して定期的に家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が要望等を話しやすいよう、苦情・意見箱を設置する等の取り組みを行っているが、ホーム外の苦情受付窓口の連絡先が明記されていない。	○	利用者や家族がより意見等を出しやすいよう、ホーム外の窓口は名称だけでなく、連絡先も明示してはどうか。
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を考慮し、異動や配置換えは最小限に抑えている。異動等を行う時は職員間での引き継ぎや利用者への説明を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講後は報告書を作成し、他の職員に伝達している。外部研修受講の機会があれば、その都度職員を派遣しているが、年間の研修計画が作成されておらず、全職員が平均的に受講する体制は整えられていない。	○	これまでの研修傾向、職員の力量や希望等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成し、全職員が経験等に応じた研修を平均的に受講できる体制を整備してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、会合等に積極的に参加するほか、市の包括ケア会議に参加し、他事業者との交流や情報交換を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望時の相談段階から利用者や家族の視点に立って面談し、意向等の把握に努めている。また、事前に見学してもらう等、なるべく早くホームの雰囲気に慣れてもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの楽しみや喜びを見出して一緒に楽しむ等、利用者の気持ちを理解するよう努めている。また、得意分野では力を発揮してもらったり、手作り作品を日々の生活で活用する等、利用者と職員が助けあいながら生活している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりや家族からの情報、ケースカンファレンス時に出される職員の意見等を基に、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らせるよう、今までの生活背景等を踏まえるとともに、利用者や家族、関係者等から聞き取りを行ったり、職員の気づきを出し合う等の取り組みを行い、個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行うほか、状態変化時や意向の変化時等は随時の見直しを行っている。また、見直しを行う時は、家族から意見を聞いたり職員の意見を出し合う等、再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望する場所への外出支援等、利用者や家族の要望に応じた柔軟な支援を心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、協力医療機関等との連携を図りながら利用者の体調管理に努めている。また、24時間いつでも対応してもらえる体制も整えられている。受診結果等は家族に報告しており、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日々の健康管理や急変時の対応等については家族との意思統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時は声がけに工夫する等、一人ひとりの羞恥心やプライバシーに配慮した支援を心がけている。また、個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報が入ったファイルは事務室の戸棚に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの言動を急かすことなく、ゆったりと対応している。また、利用者の希望や訴えには早く対応するよう心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望を取り入れている。また、食事の時は職員も席に着いて食べこぼし等へのサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、一人で入浴したりシャワーだけを利用したい等、個々の習慣や好みを大切にした支援を行っている。入浴を拒否する利用者には、入浴日や時間をずらしたり、足浴を促す等の対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の関わりや言動、家族からの情報を基に一人ひとりの希望等を把握している。調理や花の水やり、縫い物等、個々に応じた役割や楽しみごとを促し、得意分野で個性が出せるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日はドライブや買い物に出かける等、利用者の希望や身体状況に配慮しながら、外出の機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを基本としているが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族に相談して期間等について同意を得るとともに、経過観察を行う仕組みとなっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けておらず、外出傾向のある利用者は見守りを行っている。また、外出傾向を察知した時は職員がそっと付き添う等の支援を行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時の役割やマニュアルが整備されており、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。しかし、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は把握し、摂取量が少ないときは記録している。献立は職員が作成しているが、定期的に栄養士等の専門家から助言をもらう体制を整備するまでには至っていない。	○	保健所や協力医療機関の協力を得る等、定期的に栄養士等の専門家から助言をもらえる体制を整備することに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染能力の高い感染症についてはマニュアルを作成し、職員全員に周知徹底できるよう、いつでも閲覧できる場所に置いている。しかし、定期的に勉強会を行う等の取り組みは実施されていない。	○	想定される全感染症に関するマニュアルを整備し、必要に応じての見直しや職員間での勉強会を開催し、より理解を深めることに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や季節感のある装飾品が飾られており、家庭的である。また、職員の立てる物音はちょうど良く、日射しの強さはカーテンで調節しているため、快適な空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具類を持ってきてもらうよう家族に働きかけを行っており、テレビや冷蔵庫、位牌、写真立て等の馴染みの物が持ち込まれている。		

※ は、重点項目。